

CASBEE神戸ver.3

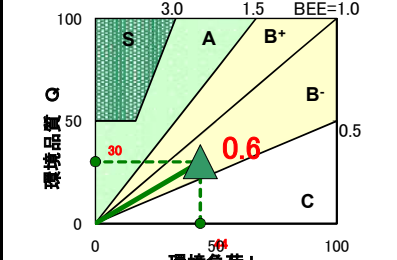
評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-SD_NC_2016(v.3.0)

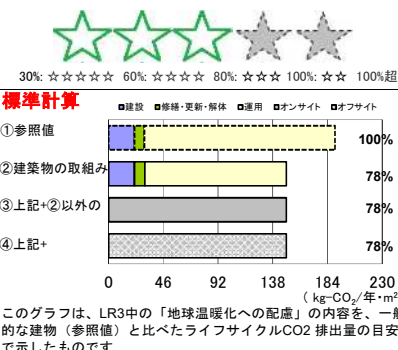
1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	RHYMS2ビル 新築工事	階数	地上10F		
建設地	神戸市中央区中山手通1丁目13番9	構造	RC造		
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	0人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)		
建物用途	事務所、物販店、飲食店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2027年 予定	評価の実施日	2026年1月21日		
敷地面積	357㎡	作成者	株式会社佐伯設計 佐伯 源治		
建築面積	251㎡	確認日			
延床面積	2,275㎡	確認者			

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

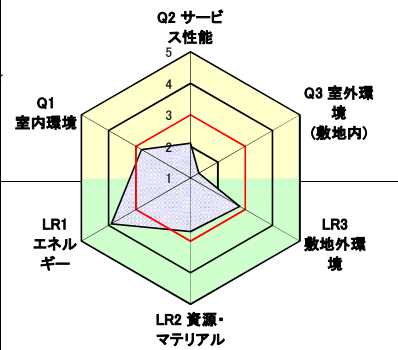
BEE = 0.6 ★★★★★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

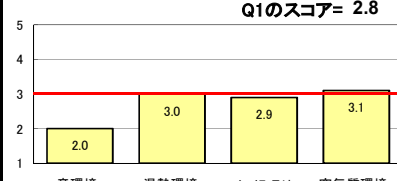
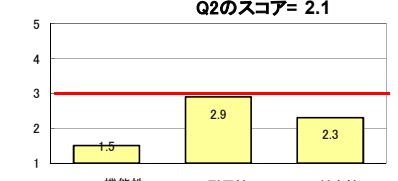
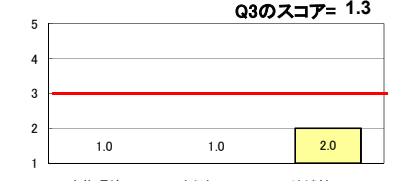


2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

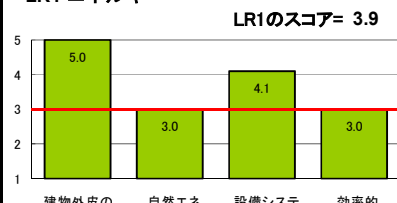
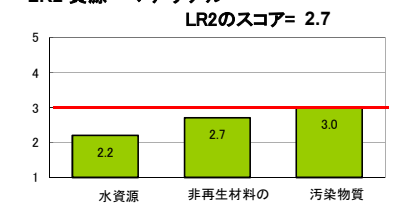
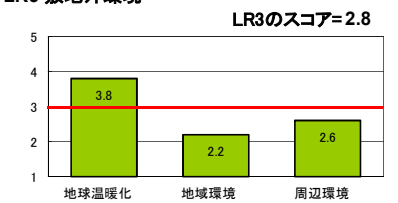


2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.2**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 2.8 	Q2のスコア = 2.1 	Q3のスコア = 1.3 

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.9 	LR2のスコア = 2.7 	LR3のスコア = 2.8 

3 CASBEE神戸 の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画  <p>1.0</p>	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振  <p>3.0</p> Q-2/2.4 信頼性  <p>2.8</p>	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮  <p>1.0</p>
配慮の概要 特になし。	配慮の概要 建築基準法に定められた耐震性を有します。	配慮の概要 特になし。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
RHYMS2ビル 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.2
Q1 室内環境							0.40	-	-	2.8
1 音環境						2.0	0.15	-	-	2.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	1.0	-	
1.2 遮音						1.7	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						1.0	0.64	1.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.36	1.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	-	1.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0	-	1.0	-	
1.3 吸音						1.0	0.20	1.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.49	1.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.17	1.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.34	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	1.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	1.0	-	
3 光・視環境						2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用						2.9	0.90	-	-	
1 昼光率						1.0	0.04	1.0	-	
2 方位別開口						-	-	1.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.96	-	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.02	-	-	
1 昼光制御		カーテン・庇によりグレアを制御しています。				4.0	1.00	1.0	-	
3.3 照度						3.0	0.01	1.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.07	1.0	-	
4 空気質環境						3.1	0.25	-	-	3.1
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						2.9	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.49	1.0	-	
2 自然換気性能						1.0	0.02	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.49	1.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		非喫煙者への煙の対策がされています。				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.1
1 機能性						1.5	0.40	-	-	1.5
1.1 機能性・使いやすさ						1.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.02	1.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.02	1.0	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.95	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						1.0	0.47	1.0	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.06	-	-	
3 内装計画						1.0	0.47	-	-	
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		更新必要間隔の長い配管を使用しています。				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.3	0.30	-	-	2.3
3.1 空間のゆとり			1.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.3
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.70	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=0.74	4.1	0.50	-	-	4.1
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		再利用可能性向上への取組みがされています。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率78%です。	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.2	0.33	-	-	2.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			1.6	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		1.0	0.33	-	-	
3	悪臭		1.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外に漏れる光を点滅させません。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	